

〔目的〕 戦後わが国の農業が機械化され、農村における農業労働の軽減に伴い、専業農家が年々減少し労働の主体が主婦に移ってきた。一方健康づくりや食生活の多様化が農村にも波及し、農民の食生活も変化してきている。このような社会環境の中で農村婦人の栄養と健康との関連をみるために、摂取エネルギー及び消費エネルギーとブローカー指数との関係を調査検討し、若干の知見を得たので報告する。

〔方法〕 昭和56年8月下旬の平日連続3日間、岩手県胆沢郡金ヶ崎町の30~50歳代の婦人227名を対象に国民栄養調査に準ずる個人秤量方式による栄養調査を実施し、同時に期間中の平均的な生活の一日について5分単位の生活時間調査を行った。また回収時に体位を計測した。分析方法は、栄養調査より摂取エネルギーを、生活時間調査より消費エネルギーを算出し、その差を正規分布するようにA, B, C, D, Eの5段階に分類し、その各々についてブローカー指数との関係を分析し、また3段階でも同様に検討した。

〔結果〕 1) 調査対象者の生活時間を生理的な時間、労働時間、社会文化的な時間の3分類で平均してみると労働時間が11時間24分と非常に長く、社会文化的時間が3時間29分と短く、その殆んどが休養に費やされていた。2) 一日の摂取エネルギーをみると平均して 1859 ± 406 Kcalであるが、消費エネルギーの平均が 2302 ± 455 Kcalとなり、消費エネルギーの方が 469 ± 529 Kcal多くみられた。またブローカー指数の平均は 103 ± 14 であった。3) 摂取エネルギーと消費エネルギーとの差を5群に分類してブローカー指数をみると、その差の大きいD群が差の小さいA群とは有意に大きく、B群とも有意差みられた。